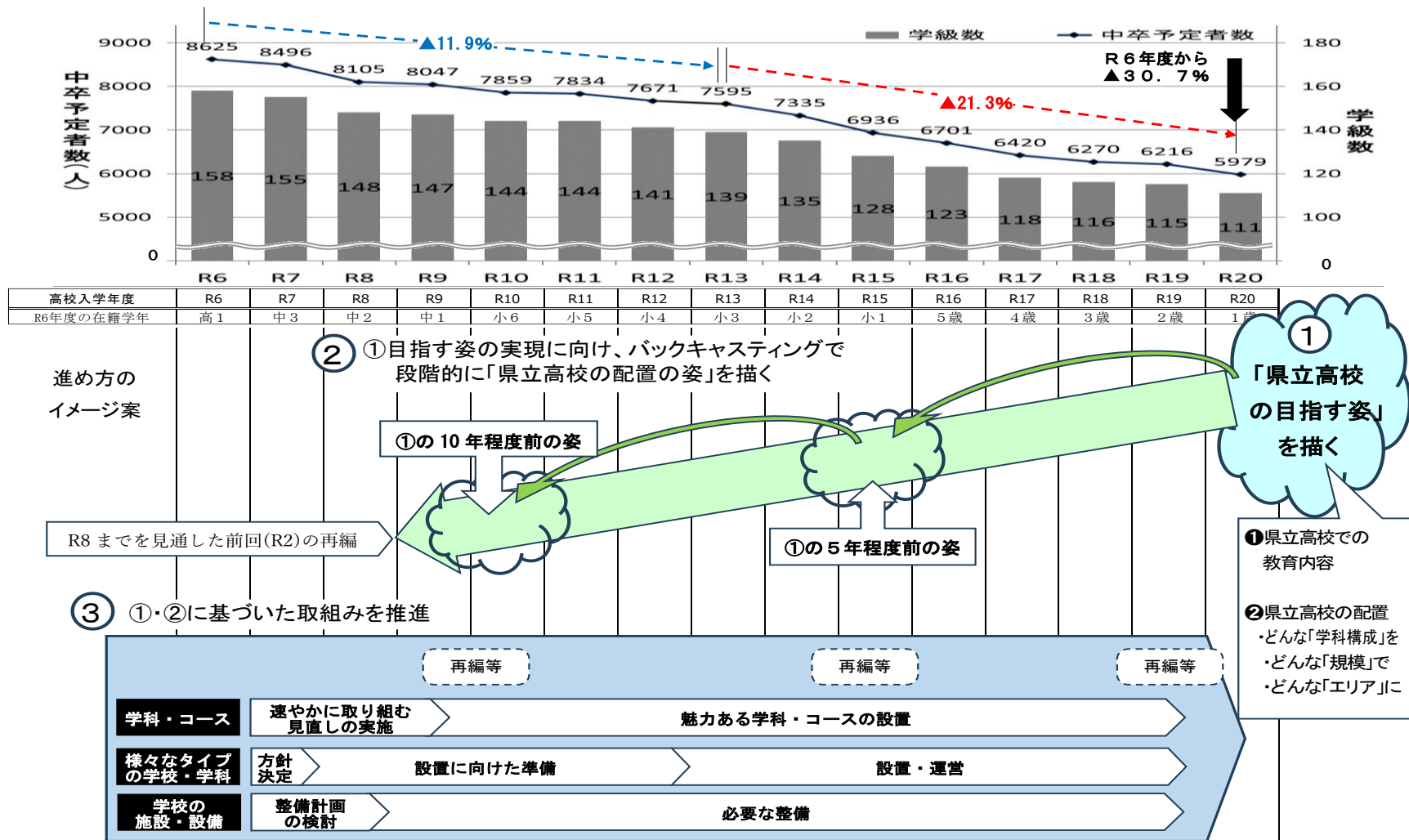


「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（素案）

～学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり～

県立高校のあり方検討の進め方

- ・本県における中学校卒業予定者数は年々減少しており、現在1歳の子どもが高校へ入学する令和20年度には現在より3割以上も減少する見込となっている。
- ・こうした状況を踏まえ、今後の県立高校のあり方については、将来どのような教育を提供するのか明らかにして検討すべきというご意見が多かったことから、
 - ①まずは、将来(令和20年度)の県立高校の教育内容、学科構成、学校規模の組合せと配置など「目指す姿」を描き、
 - ②その5年前頃や10年前頃の「配置の姿」をバックキャストिंगで考えたうえで、
 - ③各段階に必要な「再編等」の取組みを推進していくこととした。



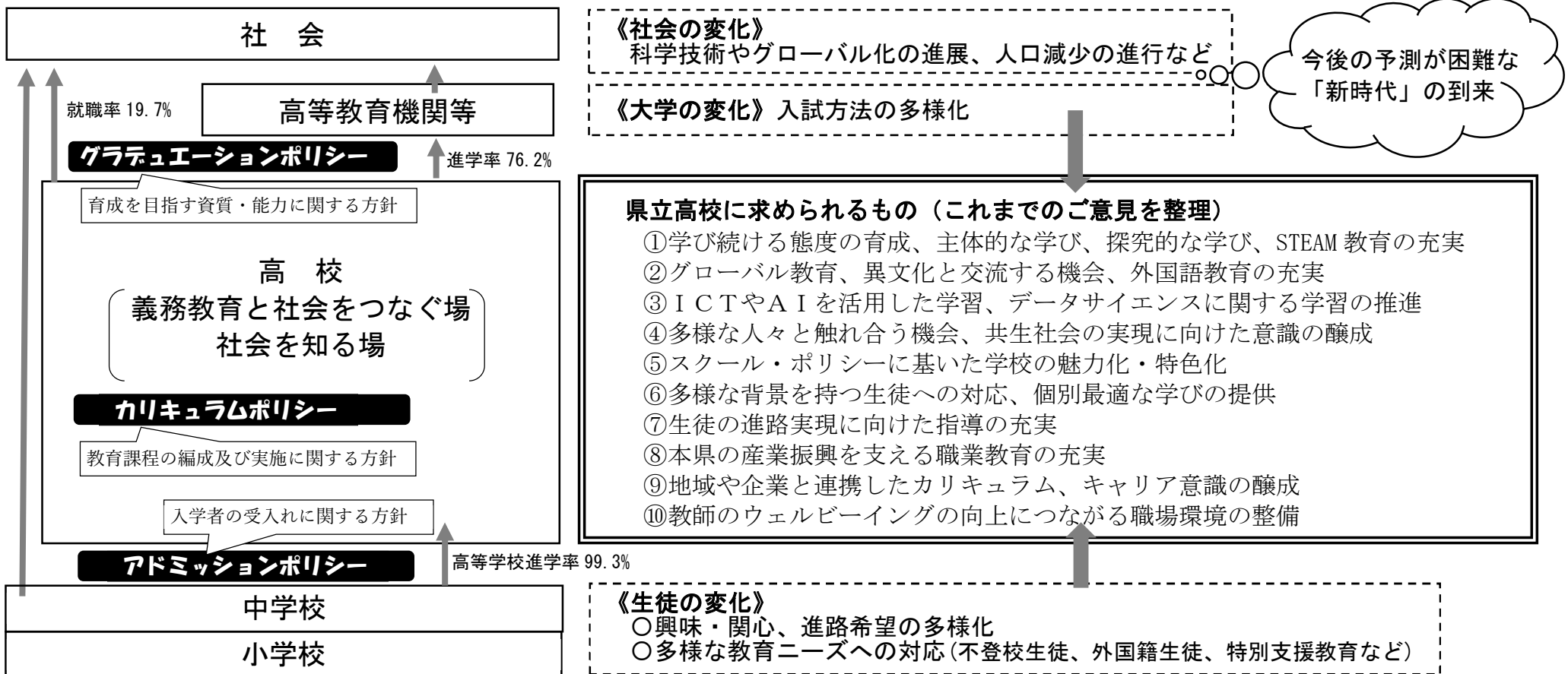
目次

I. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿	
1. 県立高校を取り巻く状況の変化	1
2. 県立高校の基本目標	2
3. 新時代とやまハイスクール構想(仮称)	
(1) 新時代とやまハイスクール(仮称)の開設	2
(2) 教育内容(学科構成)	3
(3) 学校規模	4
(4) 教育内容(学科構成)と学校規模の組合せ、配置数の目安	5
II. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」	6
III. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針	7
1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合の検討方針	8
2. 学科・コースの改編等の検討方針	9
3. 様々なタイプの学校・学科の設置の検討方針	10
4. 施設・設備等の整備の検討方針	11
5. 活力ある学校・組織づくり	11
6. その他	11

I. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿

1. 県立高校を取り巻く状況の変化

- ・これまで本県においては、生きる力を育む豊かな自然や教育熱心な県民性、熱意と使命感のある教員など、教育を支える恵まれた土壌のもと、児童・生徒の個性や能力を育む熱心な教育活動が展開され、「教育県」として高く評価されてきた。
- ・こうした中、近年、科学技術やグローバル化の進展、人口減少の進行など社会は大きく変化してきており、また、生徒の興味・関心や進路希望の多様化、不登校生徒や外国籍生徒等の多様な教育ニーズへの対応も必要になるなど、教育を取り巻く環境は既に「新時代」を迎えたと言える。
- ・今後さらにあらゆる面で予測が困難になる「新時代」において、これまでの教育実績を踏まえながら、県立高校における教育のあり方を考える必要がある。



進学率、就職率は令和 5 年度学校基本調査によるもの

2. 県立高校の基本目標

- ・社会や生徒を取り巻く現状を踏まえ、令和20年度までに実現を目指す県立高校の基本目標を定める。
- ・この基本目標を実現するため、現在の全ての県立高校(全日制)を再構築して新たな学校を開設する「新時代とやまハイスクール構想(仮称)」を進める。

基本目標

「新時代」に適応し、未来を拓く人材の育成

予測困難な時代において、生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、「ウェルビーイング」の向上を図る。

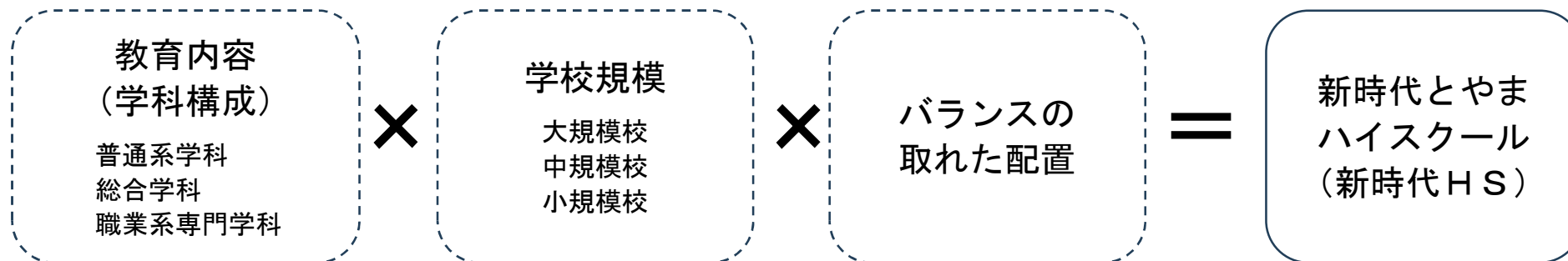
全ての県立高校(全日制)を再構築し
新しい学校を開設する

「新時代とやま
ハイスクール
構想(仮称)」

3. 新時代とやまハイスクール構想(仮称)

(1) 新時代とやまハイスクール(仮称)(以下「新時代HS」という。)の開設

- ・新時代HSは、基本目標の実現に必要と考えられる教育内容(学科構成)を組み合わせた大規模・中規模・小規模の学校で構成する。
- ・人口減少・少子化が進む中においても、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、それぞれ特色のある新時代HSを県内にバランスよく配置し、全ての生徒にとって、「学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり」を推進する。



(2) 教育内容（学科構成）

- ・新時代HSで行う主な教育内容を8つに区分する。
- ・また、県立高校教育振興検討会議の提言で示された「様々なタイプの学校・学科」との親和性を整理する。

区分	教育内容	必要となる教育課程等	「様々なタイプの学校・学科等」との親和性			
			中高一貫 教育校	国際バカレア 認定校等	外国人生徒 特別枠	全国募集
普通系 学科	①スタンダード	共通教科の学習を主体として、学校の状況やスクール・ポリシーに応じた教育課程の編成				
	②STEAM※	卒業後の高等教育機関での研究等を視野に入れた探究活動や教科横断的な学びを实践し、問題解決能力や創造力を育む。	○			
	③グローバル	国際感覚を持って海外と関わる人材を育成するためのグローバル教育を实践する。	○	○		○
	④未来創造	スポーツや芸術文化、データサイエンスなど特色ある普通系専門科目を重点的に学び、部活動の強化も図る。				○
	⑤地域共創	地域の企業や高等教育機関等と連携した教育活動を展開するなど、独自性のある教育を实践する。				○
	⑥エンパワーメント (自己発見)	様々な理由から義務教育の内容について学習不足である生徒等が、基礎学力を習得し、自己肯定感を高め、生きる力を育むことができる教育を实践する。			○	
⑦総合学科	入学後のキャリア教育等を通して、自身の進路希望を明確にし、進路に合った学びを提供する。 普通教育と専門教育を選択履修することができる。	複数の専門科目の開設			○	
⑧職業系専門学科	進路を見据え、1年次から職業系の特定専門科目を履修し、各分野で即戦力となるスペシャリストを育成する。	デュアルシステム等の特別プログラムの実施				

※STEAM Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(リベラル・アーツ)、Mathematics(数学)の5分野の学習により、問題発見・問題解決に生かしていくための教科横断的な教育

(3) 学校規模

- ・新時代HSは、大規模校、中規模校、小規模校で構成し、それぞれのメリットを活かした学校づくりを行う。

学校規模	大規模校 (1学年 400~480人)	中規模校 (1学年 200~240人)	小規模校 (1学年 120人以下)
設置のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・令和20年度以降も見通した拠点校として大規模を設置する。 ・複数の学科が併設され、多くの科目から選択履修でき、多様な考え方に接することで他者と協働して社会参画できる力をより高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の平均的な学校規模より大きくすることで、教員配置及び開設科目、部活動の数等を充実させ、生徒の選択肢の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校ならではの特色ある教育活動を展開する。 ・長期的なニーズや、通学時間の観点も踏まえた地域バランスなどに配慮し、生徒の選択肢を確保する。
施設等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開等を考えると、現在の高校施設では運営が難しいこと、令和20年度以降も見据え、県内の拠点校として長期的に使用することなどを考慮し、新築等に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の高校施設の活用を基本としつつ、必要に応じて施設設備の改修等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の高校施設の活用を基本とする。

(4) 教育内容（学科構成）と学校規模の組合せ、配置数の目安

- ・学校規模ごとのねらいを考慮し、学科構成パターンを設定する。
- ・現行の公私比率をベースとして、令和20年度における県全体の募集定員は4,000～4,500人程度を見込むとともに、1校あたりの平均募集定員はそれ以降の生徒数の減少を見越して、現在(約180人)より多い200～220人程度に設定する。
- ・これにより学校数は、全県で20校程度を目安とする。
- ・全ての学校を再構築して新しい学校を開設することとし、より広い範囲での学科改編が可能となるよう、配置は東西2つのエリアで検討する。

学校規模		大規模校 (1学年400～480人)				中規模校 (1学年200～240人)					小規模校 (1学年120人以下)	
学科の構成パターン		(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	(J)	(K)
学科	普通系学科	①スタンダード	○	○	○		○			○		
		②STEAM	○		○		○					
		③グローバル	○		○		○					
		④未来創造	○	○	○			○				○
		⑤地域共創	○	○	○			○				○
		⑥エンパワーメント (自己発見)						○	○			
	⑦総合学科							○				
	⑧職業系専門学科		○	○	○				○	○		○

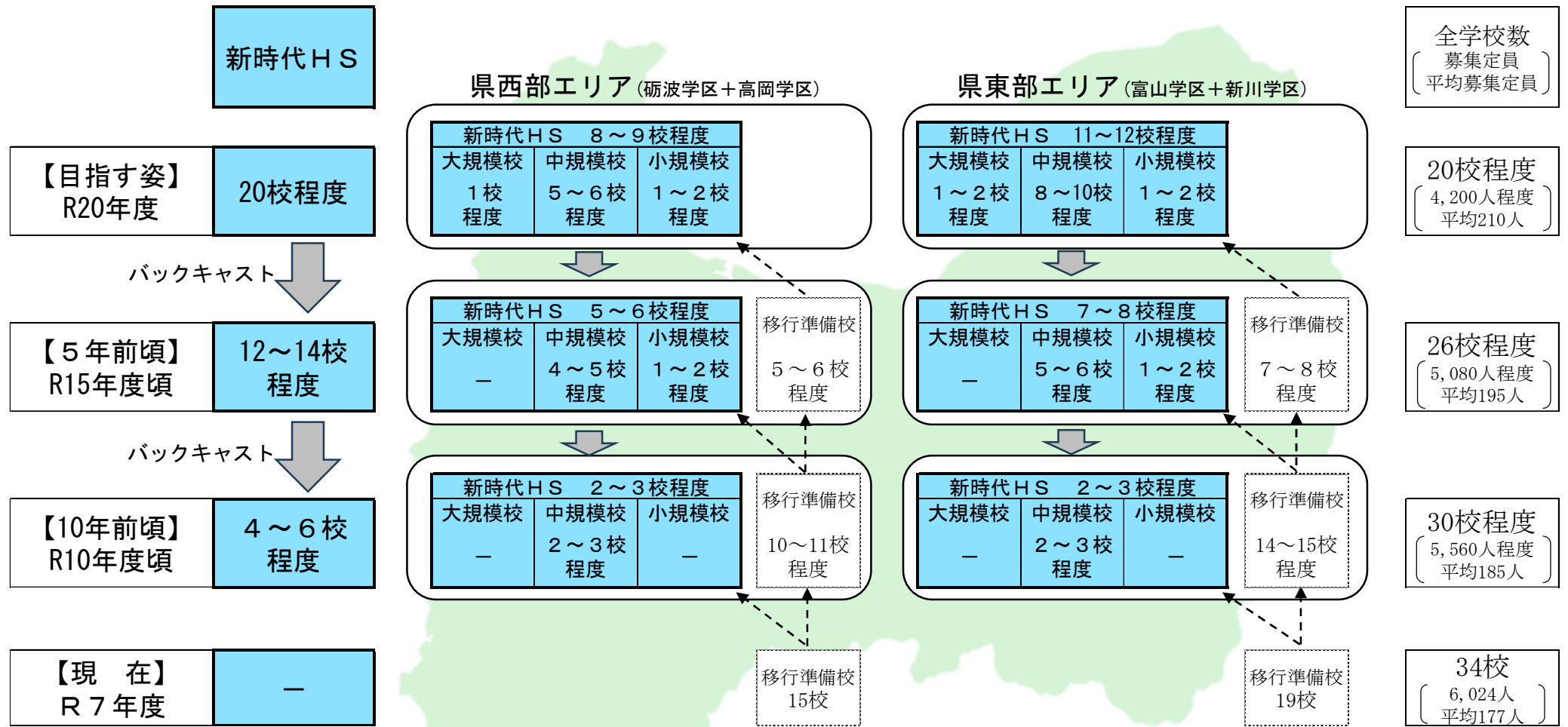
全県 (20校程度)	募集定員目安※2 4,200人程度	2校	0～1校	7～8校	2校	2校	2～3校	3～4校
		2～3校		13～15校				
県東部エリア※1 (11～12校程度)	募集定員目安※2 2,520人程度 (60%)	1～2校		8～10校			1～2校	
県西部エリア※1 (8～9校程度)	募集定員目安※2 1,680人程度 (40%)	1校		5～6校			1～2校	

※1 県東部エリア(新川学区、富山学区)、県西部エリア(高岡学区、砺波学区)

※2 募集定員目安は、現行の公私比率70.8%で試算した。

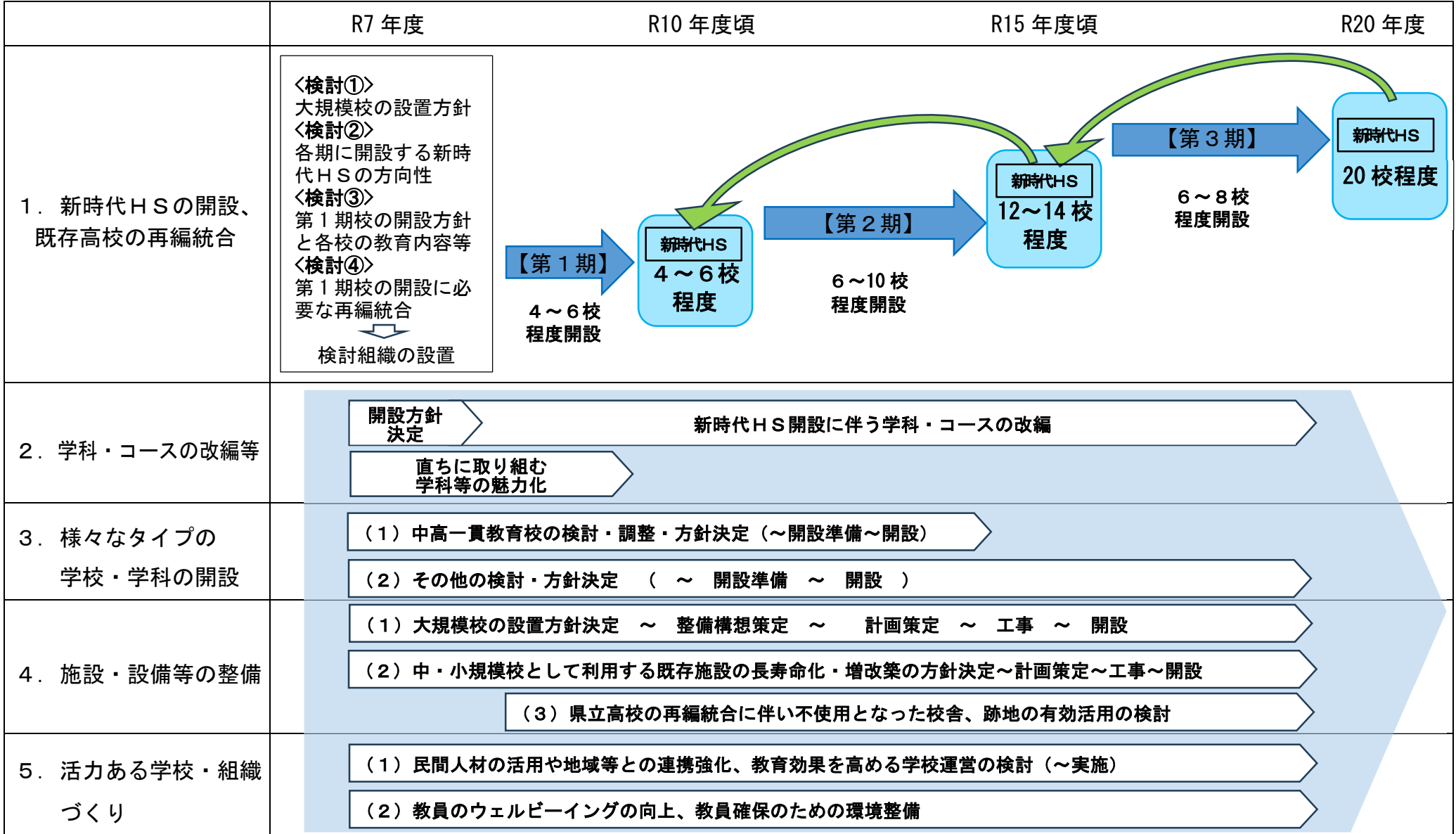
Ⅱ. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」

- ・令和20年度に、20校程度を目安とする新時代HSを設置することになるため、その5年前頃（令和15年度頃）まで、10年前頃（令和10年度頃）までに目指す「配置の姿」を描く。
- ・新時代HSを計画的に開設できるように、現在の全ての県立高校（全日制）を「移行準備校」に位置づけ、学科改編等の準備を進める。
- ・生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、エリアごとの募集定員の目安を踏まえ、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置する。

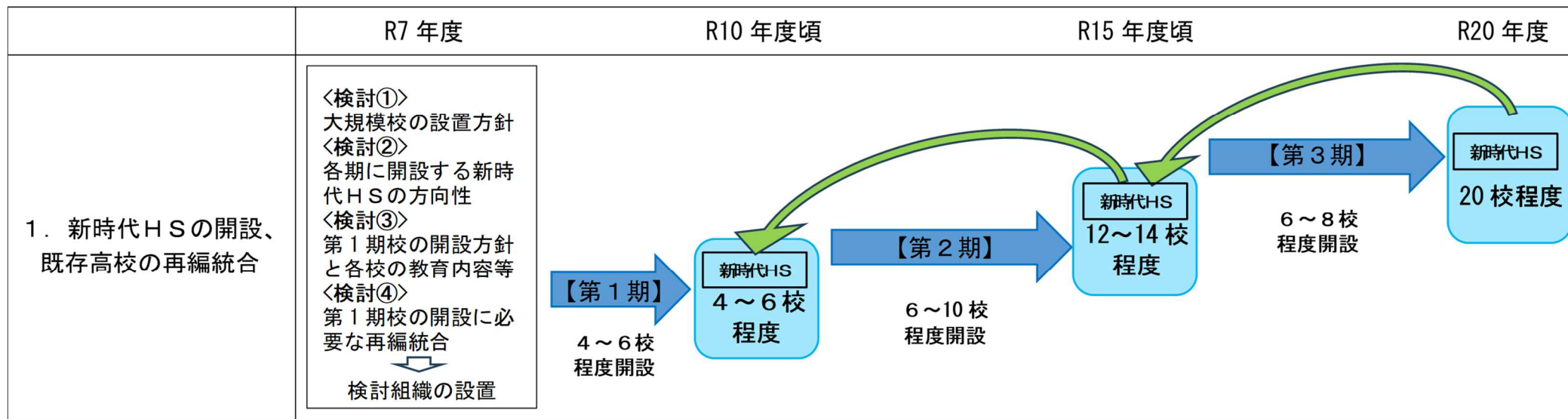


Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針

「令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿」の実現に向け、令和20年度までに新たな新時代HSを順次開設していくことになることから、「1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合」、「2. 学科・コースの改編等」、「3. 様々なタイプの学校・学科等の設置」、「4. 施設・設備等の整備」、「5. 活力ある学校・組織づくり」について、計画的に進める。



1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合の検討方針



(1) 新時代HSは、次の3つを区切りとして順次開設することとし、それぞれの期において必要となる県立高校の再編統合を実施する。

- ・ 第1期(令和10年度頃まで)は、大規模校の設置方針を検討したうえで、速やかに対応すべき教育課題[※]の解決を図る中規模校を開設する。

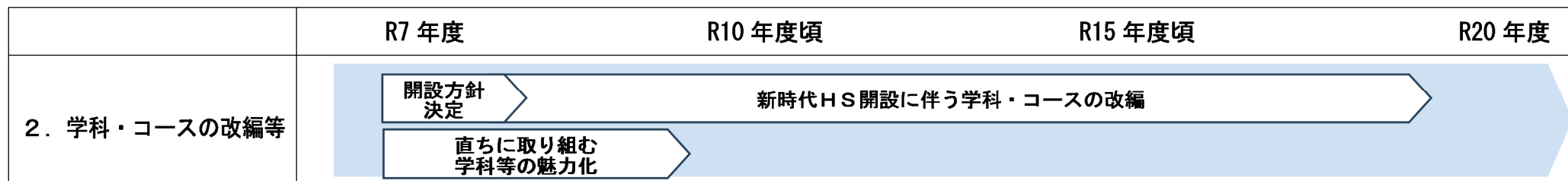
※グローバル教育、情報教育、誰一人取り残さない教育など

- ・ 第2期(令和15年度頃まで)は、大規模校の開設準備を進めるとともに、中・小規模校の充実を図る。
- ・ 第3期(令和20年度まで)は、大規模校も含めて全て開設し、「新時代とやまハイスクール構想(仮称)」を完成させる。

(2) 令和7年度には、「①大規模校の設置方針(学科構成、設置場所など)」、「②各期に開設する新時代HSの方向性」、「③第1期校の開設方針と各校の教育内容等」、「④第1期校の開設に必要な再編統合」について検討する。

(3) (2)を検討するための組織として、令和7年度に「新時代とやまハイスクール構想検討会議(仮称)」を設置することとし、そこでの意見を取りまとめ、総合教育会議に報告する。なお、第2期以降の開設に関する検討組織等については、必要に応じて別途決定する。

2. 学科・コースの改編等の検討方針



- (1) 新時代HSの学科・コースは、前述の8区分の学科をベースに、必要に応じて、それらの学科を組み合わせた形で設定する。
- (2) 第1期校から第3期校までの開設にあたっては、それぞれの時点における教育環境の変化や教育ニーズ等を十分踏まえて学科・コースを設定することとし、従前の学科・コースの魅力を一層高めるという観点から改編等を行う。
- (3) 現在学ぶ子どもたちのために、直ちに学科・コースの見直しを行う必要がある場合は、「こどもまんなか」の視点から、第1期校の開設を待たず、速やかに学科改編等を行うこととする。
- 魚津工業高校・砺波工業高校の工業科の一括募集及び改編など

3. 様々なタイプの学校・学科等の開設の検討方針

	R7 年度	R10 年度頃	R15 年度頃	R20 年度
3. 様々なタイプの学校・学科の開設				
	(1) 中高一貫教育校の検討・調整・方針決定 (～開設準備～開設) (2) その他の検討・方針決定 (～開設準備～開設)			

- (1) 新時代HSの開設にあたっては、前述の8区分の学科との親和性を踏まえ、「様々なタイプの学校・学科等」の開設についても検討することとする。
- (2) 「中高一貫教育校」は、第2期での開設を目指し、その目的や役割・機能を十分に整理し、市町村教育委員会等の関係機関とも協議しながら、開設に向けた検討を進める。
- (3) 「国際バカロレア(IB)認定校等」は、第1期にグローバル教育に重点を置く学校を開設し、その取組みを検証しながら、認定校のニーズや効果を整理し、導入の必要性等の議論を重ねる。
- (4) 「外国人生徒に係る特別入学枠」は、第1期での開設を目指し、義務教育における外国人生徒の現状やニーズの把握に努め、入学後の教育課程や日本語指導等の支援体制に関する課題も整理しながら、導入に向けた検討を進める。
- (5) 「全国募集」については、まず南砺平高校での実施が軌道に乗るよう、南砺市等と連携した取組みを進めることとし、第2期にその効果や課題等も整理し、対象校拡大の可能性を地元の意向等も踏まえて検討する。

4. 施設・設備等の整備の検討方針

	R7 年度	R10 年度頃	R15 年度頃	R20 年度
4. 施設・設備等の整備	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 10%;"></div> <div style="width: 80%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) 大規模校の設置方針決定 ~ 整備構想策定 ~ 計画策定 ~ 工事 ~ 開設</p> </div> <div style="width: 10%;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="width: 10%;"></div> <div style="width: 80%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(2) 中・小規模校として利用する既存施設の長寿命化・増改築の方針決定～計画策定～工事～開設</p> </div> <div style="width: 10%;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="width: 10%;"></div> <div style="width: 80%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(3) 県立高校の再編統合に伴い不使用となった校舎、跡地の有効活用の検討</p> </div> <div style="width: 10%;"></div> </div>			

(1) 令和7年度に検討予定の「大規模校の設置方針（学科構成、設置場所など）」を踏まえ、大規模校の設置に伴い必要となる新築等や設備の整備構想を決定のうえ、計画策定、工事を着実に進め、第3期に大規模校を開設する。

(2) 中規模校・小規模校については、第1期校から第3期校までのそれぞれの開設方針等に基づき、校舎に関する検討を行うこととし、既存施設の長寿命化対策や増改築など必要となる施設や設備等の整備構想を決定のうえ、計画策定、工事を着実に進めて開設する。

(3) 県立高校の再編統合に伴い不使用となった校舎、跡地の有効活用についても検討する。

5. 活力ある学校・組織づくり

	R7 年度	R10 年度頃	R15 年度頃	R20 年度
5. 活力ある学校・組織づくり		(1) 民間人材の活用や地域等との連携強化、教育効果を高める学校運営の検討（～実施）		
		(2) 教員のウェルビーイングの向上、教員確保のための環境整備		

(1) 活力ある新時代HSの実現に向け、民間人材の活用や地域の企業・高等教育機関など外部との連携強化に加え、教育効果を高める学校運営について検討し、可能なものから実施する。

(2) 生徒によりよい教育を提供できるよう、教員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立させ、ウェルビーイング向上を図るとともに、教員確保のための環境整備を推進する。

6. その他

(1) 「定時制・通信制高校」については、多様な生徒に対応した教育を確保する観点から、現在の配置を維持することを基本としつつ、今後の新時代HS開設の検討の中で、その位置付けや全日制高校との関係について整理しながら、必要な検討を進める。

(2) 高校時点での県外進学が増加傾向にある中、建学の精神のもとに特色ある教育を実践される「私立高校」と協調を図りながら、富山ならではの魅力ある高校づくりを進める。